

神崎市脊振町複合施設基本設計（案）

① 設計の基本方針

神崎市脊振町複合施設は、「人口減少・少子高齢化・地域経済の衰退」などの喫緊の課題解決に向けた地域再生の役割を担う「小さな拠点づくり」を行う施設として位置づけられています。

3町村が合併した神崎市の新たな拠点として、神崎市（脊振町）の歴史や文化、まちの特性を見つめ直し、だれもが利用しやすい「賑わいの拠点」としての複合施設の整備に取り組み、地域住民の心の拠りどころとなる、愛される施設づくりを行います。

5つの基本方針

1. 市民サービス向上に繋がる施設

- ①「市民ホール」を中心とした明るく開放的で賑わいが感じられる空間構成
- ②市民利用窓口を1階に集約した行政機能
- ③多目的な施設利用ができる生涯学習センター
- ④プライバシー確保に配慮した健康・医療機能
- ⑤各機能に隣接した駐車場の配置

2. 人や環境にやさしい施設

- ①ユニバーサルデザインへの配慮
- ②地元産の木材（スギ・ヒノキ）の積極的活用
- ③熱負荷を抑制する建築的工夫（大屋根による直射日光の制御等）
- ④自然エネルギーの活用
- ⑤省エネルギー設備機器の採用
- ⑥ライフサイクルCO₂の削減

3. 市民の安全・安心を支える施設

- ①防災機能の強化（災害対策室・避難スペースの確保等）
- ②耐震性・耐久性の優れた施設
- ③非常用自家発電設備の設置や防災備蓄の確保
- ④災害時の避難場所・連絡機能の整備
- ⑤情報セキュリティの強化

4. 賑わいの拠点となる施設

- ①情報発信スペースを中心とした空間構成
- ②図書館など休日開放機能の前面配置
- ③賑わい広場と駐車場の一体整備
- ④市民活動の「見える化」による賑わいの創出

5. 経済性とのバランスを考慮した施設

- ①複合化による維持管理費の削減
- ②ライフサイクルコストの削減に配慮した計画
- ③省エネルギー対策

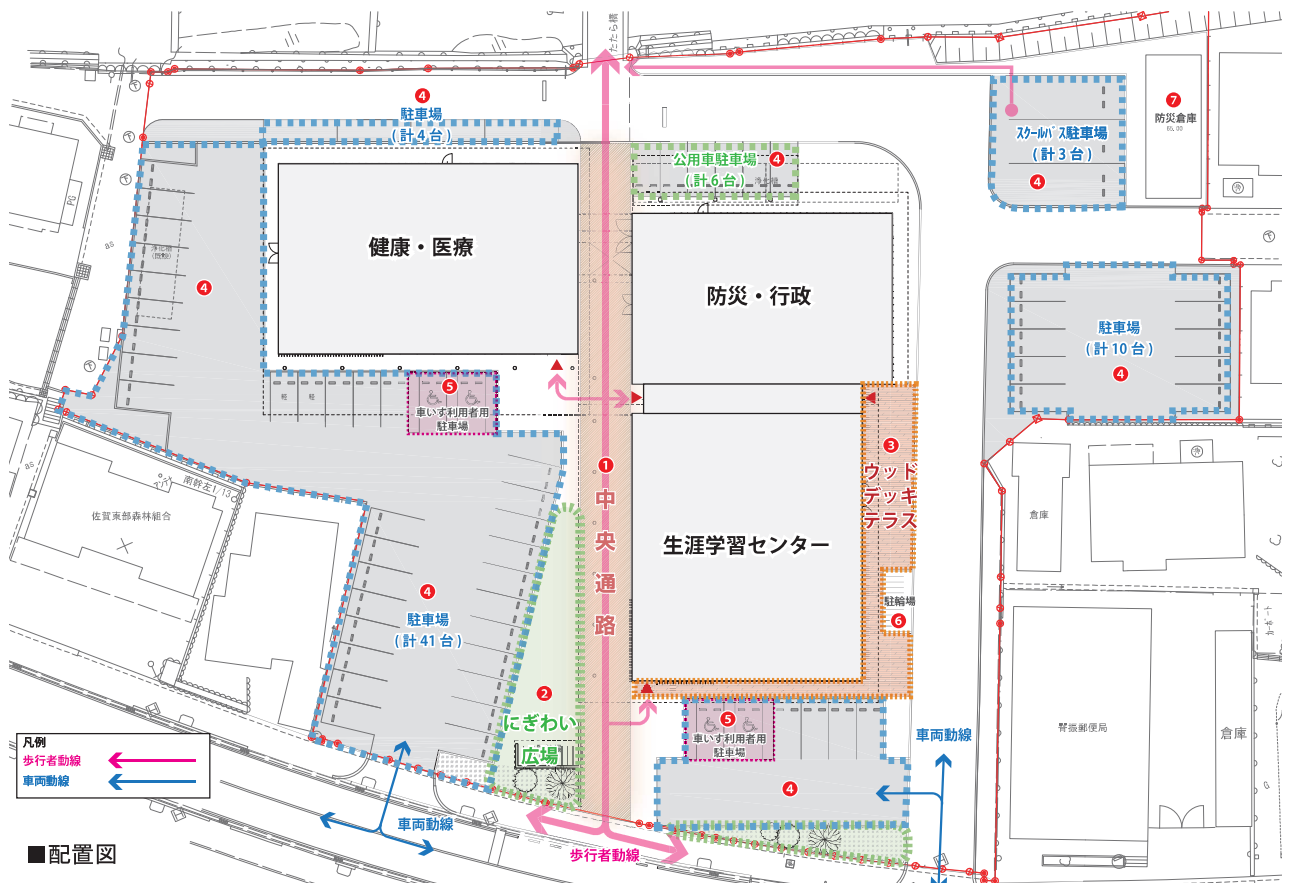


② 配置計画の考え方

本複合施設は脊振の街並みのスケールに合わせ、複数の小さな建物が集まったような施設計画とするため、敷地中央に整備した県道から小学校へと向かう通路を軸に3つの機能を繋ぎます。

中央通路は、屋根の掛かる軒下空間とするとともに車両動線との分離を図ります。歩行者の安全を確保するとともに、すべての機能へアクセスできる明解な動線計画とします。

県道に面して図書館や公民館、広場を配置することで賑わいを創出するとともに、近隣への圧迫感を排除し、さらに日照も良好となるL型の建物配置とします。建物に囲まれた駐車場は、屋外イベントスペースとしての利用も想定した計画とします。



① ゆとりのある「中央通路」

敷地中央に、車両動線と完全に分離した歩行者専用通路を整備し、この通路より各機能へアクセスします。また、大きな屋根により雨天時の施設利用にも配慮しています。

② 「にぎわい広場」

県道に面してまとまりのある広場を確保します。複合施設のメインアプローチに配置することで、図書館と併せて賑わいを創出します。

③ 「ウッドデッキテラス」

「生涯学習センター」の廻りにウッドデッキを敷設します。市民ギャラリー等の共有スペースからの回遊性を向上させます。

④ 利便性の良い駐車場計画

市民・車いす利用者用駐車場・スクールバスなどの駐車場の位置は、利用者の利便性に配慮し、各機能に近接した位置に設けます。

⑤ 車いす利用者用駐車場

「生涯学習センター」「健康・医療機能」の出入口付近に車いす利用者用駐車場を2台ずつ配置します。

駐車スペースは、運転席・助手席のどちらからでも乗降しやすいスペースを設け利用者の利便性に配慮します。

⑥ 駐輪場

図書館東側にバイクおよび自転车用駐輪場を整備します。歩行者用の「中央通路」と離れた位置に配置する事で歩行者の安全性に配慮します。

⑦ 防災倉庫

災害時などに主として屋外で使用する物品等保管用の防災倉庫を、スクールバス駐車場付近に設置します。

飲料水や食糧等、屋内で必要となる物品等は、建物内部の倉庫などに備蓄します。

③ 建替えローリング計画および建設スケジュール

複合施設の建設にあたっては、地域住民や登校児童の安全確保を最優先しつつ、過疎債及び合併特別債の発行期限となる平成32年度末までに建物を完成させる必要があります。

合理的で理想的な建物配置を実現するための建替えローリング計画（建替え手順）と建設スケジュールを下記に示します。

■ 建替えローリング計画



■ 建設スケジュール（予定）

平成29年度			平成30年度			平成31年度			平成32年度														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基本設計																							
			実施設計																				
			支所・公民館解体設計						2000年館解体設計			診療所解体設計											
			公民館改修工事			支所解体工事			複合施設建設工事（Ⅰ期）			複合施設建設工事（Ⅱ期）											
			道路付替え			外構工事			外構工事			外構工事											
			公民館改修工事			支所解体工事			公民館・2000年館解体工事			診療所解体工											
			引越し （庁舎→公民館）			引越し （公民館→複合施設）			引越し （診療所→ 複合施設）														
						● 複合施設供用開始 （支所・公民館）			● 複合施設供用開始 （診療所）			● 過疎債及び 合併特別債期限											

④ 平面計画の考え方

1. 賑わいを生む空間構成

「市民ホール」を中心に、「図書館」や「調理実習室」など、活動機能を県道側に配置する事で、賑わいの感じられる諸室配置を行います。

また、敷地中央の通路に面し大きなガラスの開口を設けることで、明るく開放的な空間にするとともに、施設内外の視認性を高め、市民活動の「見える化」を図ります。

2. 目的に合わせまとまりのある機能配置

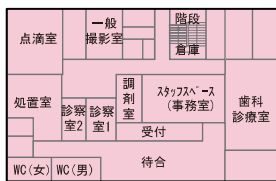
証明書発行等の窓口機能、サークル活動、健康診断や診療など、目的ごとにまとまりのある機能配置を行い、市民にとって利用しやすい平面計画を行います。

3. プライバシーに配慮した機能配置

「健康・医療機能」は、他人の視線が届きにくい位置に配置し、利用者のプライバシーに配慮します。

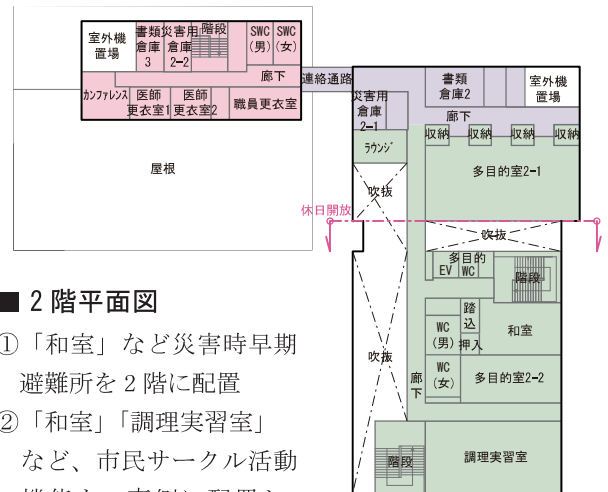
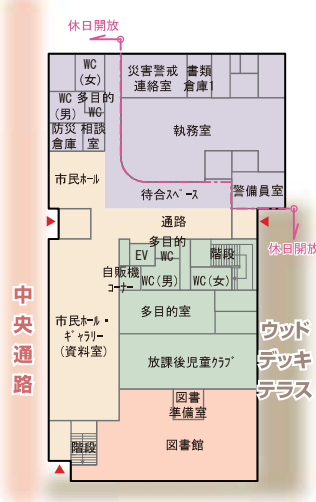
4. 災害時の市民の安全・安心に配慮した施設計画

災害時の中枢機能となる「災害警戒連絡室」は執務室に隣接して配置し、非常用発電機設備、飲料水や食料等を保管する「災害用倉庫」、地域住民の避難所となる「和室」や「大会議室」は、万が一の浸水を想定し建物2階以上に配置します。



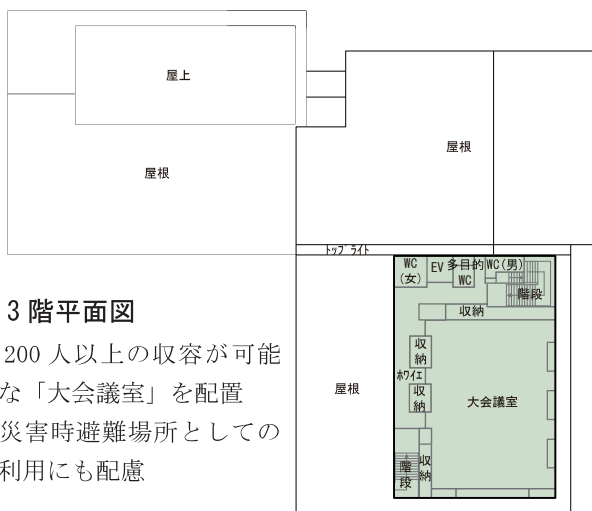
■ 1階平面図

- ①市民ホールや図書館など賑わいを生む機能を県道側（南側）に配置
- ②診療機能や相談室などは建物北側に配置し、プライバシーに配慮



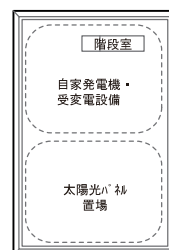
■ 2階平面図

- ①「和室」など災害時早期避難所を2階に配置
- ②「和室」「調理実習室」など、市民サークル活動機能を、南側に配置し、賑わいの創出に配慮



■ 3階平面図

- ① 200人以上の収容が可能な「大会議室」を配置
- ② 災害時避難場所としての利用にも配慮



■ 屋上平面図

- ①生涯学習センター屋上を屋外機械置場とし、近隣への騒音対策を図る
- ②自然エネルギーの利用として太陽光パネルを設置

⑤ 外観デザインの考え方

「脊振町複合施設」のデザイン検討において、複合化のメリットを活かし、脊振らしさを表現するため、以下の3つのコンセプトを軸にデザインを検討します。

1. 脊振の街並みになじむスケール感

複合施設のほとんどを2階建てとし、近隣建物とのスケール的な調和を図ることで、周辺の街並みへの圧迫感や日照に配慮します。また、歩行者用の庇の役割を持つ大きな屋根を2階のレベルに計画し、周辺の民家とのバランスを図ります。

脊振の街並みになじむヒューマンスケールな建物とし、いつでも誰もが気軽に利用しやすく、市民にとって愛着がわく複合施設とします。



■敷地周囲の街並み

2. 分棟形式的な機能配置による複合化の表現

3つの機能（防災・行政、生涯学習センター、健康・医療）は、独立したような佇まいとします。それぞれの各機能は「市民ギャラリー」を中心として、それにつながる通路などの共用空間や深い軒下空間によって繋がれ、「共用空間」には、光が差し込み、風が抜け、市民の憩いのコミュニティスペースとなります。

3. 機能性と意匠性を両立した内外装デザイン

建物の外装には、ガラス、アルミ、金属屋根、セメントパネルなど現代的な建材を使用し、透明感や軽やかさを表現するとともに、脊振町らしさのある複合施設として、木質系の材料を積極的に使用します。素材の選定にあたっては、意匠性だけでなく、耐候性やメンテナンス性など施設のライフサイクルコストに配慮も配慮します。

内装材は、清掃性が良く安全な建材を使用します。また、天井や壁には化粧材に木材を使用し、内外ともに温かみのある空間を演出します。



■内観デザインのイメージ

